

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回戸田市環境審議会（書面会議）
開催日時	資料送付日：令和2年9月17日（木） 意見書提出期間：令和2年9月18日（金）から令和2年10月5日（月）
開催場所	（書面会議のため該当なし）
議 題	（1）第1回戸田市環境審議会（書面会議）等からの意見と回答について て （2）戸田市環境基本計画骨子案について （3）戸田市域の温室効果ガス排出削減目標の改定方針について
会議結果	以下議事録のとおり

(会議の経過)

議題 1：第 1 回戸田市環境審議会（書面会議）等からの意見と回答について

	意見
1	①環境マネジメントシステムの具体的内容が分からない。大規模事業者「地球温暖化対策計画書」との相違は何か。 ②環境マネジメントシステムを導入した企業・団体にどのような助成があるのか教えていただきたい。
2	「SDGs の政策への取り組みと紐づけ」や「気候変動対策の中でもとくに適応策」及び「食品ロス問題と廃プラスチック問題への対応」といった喫緊の環境問題が環境基本計画の骨子案や体系案の策定に盛り込まれていて良いと思う。 新型コロナウイルス感染症対策は環境課の業務ではないかもしれないが、コロナ後の社会における「新しい生活様式」と「ICT」や「SNS」のもとで、環境対策や環境活動の再考を迫られると思う。
3	多くの意見が集まり、回答も的確なものだと思う。今後も継続的なフォローがなされることを希望する。

議題 2：戸田市環境基本計画骨子案について

	意見
1	基本目標 1～4、各項目の基本施策、4つのプロジェクトについては、概ね了解した。ただし、改訂の度に色々と変わるのはいかがだろうか。
2	第 2 章 1 (1) 市の概況の中で「荒川第一調節池と貯水池（彩湖）」について、荒川第一調節池の通称が（彩湖）であるため、「荒川第一調節池（彩湖）」とするのが適切だと思う。
3	第 2 章 2 (3) 緑・生物多様性の保全の中で、生物多様性の主流化を説明するならば「今後、生物多様性への理解を浸透させていくことが、共通の課題となりました。」の部分は意味が異なるので削除し、次のように修正することを提案する。 【修正案】 2011 年以降の新たな世界目標である「生物多様性戦略計画 2011-2020 及び愛知目標」が採択され、目標の実現に向けた行動計画が示されました。2021 年に中国（北京）で開催予定の生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）では、愛知目標に続く生物多様性の新たな世界目標が議論される予定です。 ※19 頁の表についても同様に修正することを提案する。
4	第 2 章 2 (3) 緑・生物多様性の保全の中の「日本は・・・」の部分について、生物多様性基本法が重要であるため、次のように修正することを提案する。 【修正案】 日本では、生物多様性条約の締結を受けて、2008（平成 20 年）に「生物多様性基本法」が制定され、法律に基づく初めての計画として「生物多様性国家戦略 2010」が策定されました。その後、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）の成果を踏まえ、2012（平成 24）年に「愛知目標」達成のロードマップとして「生物多様性国家戦略 2012—2020」が策定され、この戦略に基づく取り組みが進められています。 ※19 頁の表についても同様に修正することを提案する。
5	第 3 章 2 (1) 基本目標の中で、基本目標 3「人や自然にやさしい、自然環境と調和したまち」について、自然と自然環境の使い分けがされておらず表現が重複している。自然の恵みを受け続

	<p>けることが自然を守る主な理由であることから、「快適に心豊かに暮らすことができる、自然と調和したまち」に修正することを提案する。また、基本目標3の説明文は課題と方針が混在していてわかりにくい。他の基本目標の説明文と同様に、「現状・課題」→「方針」という流れに修正することを提案する。</p> <p>【修正案】</p> <p>本市は、荒川のほとりに発展した都市で、水辺の生きものが豊かな自然は、まちに魅力を与え、心豊かに暮らすために大切な資源の一つです。また、心豊かに暮らすためには、身近な環境の空気や水、静穏が保たれていることが重要です。</p> <p>そのため、身近な自然を守り、自然や緑を活かしたまちづくりを進めるとともに、自動車の排気ガスや事業所からの騒音・振動、河川の水質改善などの公害防止を図り、快適で心豊かに暮らせることができるまちを目指します。</p>
6	<p>第3章2(1)基本目標の中で、基本目標4「みんなが環境を学び、環境に取り組むまち」について、「環境に取り組む」は表現として適切でないと感じたため、「みんなが環境を学び、環境の保全に取り組むまち」に修正することを提案する。</p>
7	<p>第3章2(3)①基本方針1-2の基本施策「気候変動がもたらす気象災害への対応」の説明文について、「気候変動が進んでいることの影響が指摘されているから、備えを強化するわけではない」ため、次のとおり修正することを提案する。</p> <p>【修正案】</p> <p>全国各地で発生している経験値を超えるような豪雨は、気候変動の影響が指摘されています。市の防災や河川管理、下水道の部署を中心に、国・県とも連携し、内水氾濫や河川氾濫などの気象災害への備えを強化していきます。</p>
8	<p>第3章2(3)③自然環境・生活環境分野の説明文について、用語として自然環境、自然、生態系、緑の使い分けが必要だと思う。そのため、次のとおり修正することを提案する。</p> <p>【修正案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「市内の自然環境・生態系について」→「市内の自然について」 ・「道路や公園、建物などの環境形成に緑を活かすこと」→「道路や公園、建築物の緑化を推進すること」 ・「生きものの種についての問題に適切な対応をすること」→「在来の野生生物を守ること」
9	<p>第3章2(3)③基本方針3-1の基本施策「重要種の保護」について、重要種という言い方は一般的ではないと思うため、「野生生物」とすることを提案する。また、「戸田ヶ原再生事業」は「戸田ヶ原自然再生事業」が正しい表現であるため、説明文については次のとおり修正することを提案する。</p> <p>【修正案】</p> <p>○野生生物の保護</p> <p>戸田ヶ原自然再生事業や河川環境の整備を通じて、市内に昔から生息生育している動植物（在来種）の保護を進めます。特に生息数が減少している希少種については、関係機関と協力して状況に応じた適切な対応を行っていきます。</p>
10	<p>第3章2(3)③基本方針3-1の基本施策「生態系かく乱種への対応」について、生態系かく乱種という言い方は一般的ではないと思うため、「外来生物への対応」とし、説明文についても次のとおり修正することを提案する。</p> <p>【修正案】</p> <p>外来生物は、人の活動によって海外や国外の他の地域から、意図する意図しないにかかわらず持ち込まれた生きものです。外来生物のうち特に問題が大きい種として法律により「特定外来生</p>

	物」に指定された生きものについては駆除に取り組みます。その他「生態系被害防止外来種リスト」への掲載種などは、関係機関と協力して、状況に応じた適切な対応を行っていきます。
11	<p>第3章2(3)③基本方針3-2「まちなみへの緑の活用を図る」について、「まちなみ」という表現だと景観の印象が強いように感じる。施策内容には雨水浸透やヒートアイランド緩和なども含まれているので、「まちづくりへの緑の活用を図る」に修正することを提案する。</p> <p>同様に、基本施策「都市緑化の推進」の説明文について、「快適なまちなみづくり」を「快適なまちづくり」に修正することを提案する。</p>
12	第3章2(3)③基本方針3-2の基本施策の中で、「都市緑化の推進」と「公共空間の緑の整備」の対象の違いがわかりにくい。前者は民有地を対象としているのか。各基本施策における対象を明確にし、内容に即した名称に修正する必要があるように思う。
13	<p>現行の計画体系を抜本的に見直し、新たな計画体系として「気候変動」「資源循環」「自然環境・生活環境」「環境学習」の4分野について基本目標を掲げたことは的確であると思われる。特に気候変動分野の基本方針を「緩和策」と「適応策」に、環境学習分野の基本方針を「環境学習」と「環境保全活動」に分けたことで、イシュー（課題・論点）が見やすくなっている。</p>
14	気候変動分野の中で「グリーンエコノミー」や「ESG投資」のような環境経済的な関心が見られないことと、環境学習分野の中で「ESD」（持続可能な開発のための教育）への言及がなされていないことが気になる。基本方針4-1の基本施策の3番目は「学校教育における環境学習支援」よりも、例えば「地域づくりの担い手を育てるESD」のような視点も必要かと思われる。
15	SDGsとの関連づけについて、気候変動分野にはゴール9「産業と技術革新の基盤をつくろう」（→ターゲット9.4）を、環境学習分野にはゴール12「つくる責任、つかう責任」（→ターゲット12.8）を、それぞれ加えることを提案する。
16	目指す将来像については過去においても努力してきたと思うが、人口が増えると一層の努力が必要になると思う。少しでも豊かな心で生活が送れるように、また、計画が机上のことにならないように実行していきたい。
17	テーマごとに具体的な計画案、施策方法、展開が示され、大変良くまとまっていると思う。環境問題の動向などは、世界、国、県、市でテーマごとにまとめられているのが非常にわかりやすい。目指す将来像も「人・緑・水が輝き みんなでつくる環境都市 とだ」とわかりやすいものになっており、将来の子どもたちにも誇れる戸田市を目指すことがよくわかった。
18	SDGsの考え方を活用することはよいと思うが、各基本方針や基本施策にロゴ付きで掲載することには違和感がある。SDGsについては、制度紹介と理念を基本方針に取り入れている旨の程度でよいと考える。環境問題の市民参加には、わかりやすく取り組みやすい広い間口が不可欠で、SDGsの認知度や英語に抵抗のある方などを考慮すると、骨子案での扱いは多いと感じる。
19	資料②-1 P17のアンケートで「分からない」の回答率が多い。そのような項目について、今後施策を実施していくうえで、わかりやすさに力点を置いていただきたい。
20	災害に対して強いエネルギーを複数選ぶと良いのではないか。エネルギーセンターの見学など、どんなエネルギーが戸田市に合うのかを考えていけると良いと思う。参考として、山手線田町駅のスマートエネルギーネットワークは、施設の通路の上に太陽光発電を設置したり、都市ガスから発電した熱を温水などに2次利用するなどしており、画期的な場所であると感じた。
21	ウーバーイーツなどで使われている電動自転車は、オートバイや車に頼らない感じが良いと思う。企業にも取り入れてもらうように啓発を進めると、二酸化炭素削減につながると思う。

議題3：戸田市域の温室効果ガス排出削減目標の改定方針について

	意見
1	温室効果ガスの算定方法に関連して、一般の人に対して、個人の寄与がどれほどか理解してもらうため、電気・ガス・灯油それぞれについて、モデル家庭（例えば、一か月の電気使用量 300～500kWh、ガス 100 m ³ 、灯油 x L）を想定して温室効果ガス排出量の具体例を示すなどすると良いと思う。また、家庭ごみの排出に伴う温室効果ガスの排出についての情報も載せると良いと思う。
2	戸田市の温室効果ガス排出削減目標を日本の総量削減目標（2030年度に2013年度比で26%減）に沿って設定するというのも一つの考え方であり、排出量推計における排出係数や算定方法の問題も理解できる。しかしながら、日本全体や埼玉県とは別に、市域の産業構造や経年推移などから、戸田市独自で意欲的に各部門の削減目標を設定することはできないだろうか。
3	戸田市の温室効果ガス排出削減目標を国の計画と一致させ「2030年度の排出量を2013年度比で26%削減」としたことは大変わかりやすいと思う。また、部門・分野ごとに削減率が示され、目標に向かう将来推計も大変良いと思う。実現に向けて頑張りたい。
4	現在の削減対策では2013年度比13%増になるということか。もしそうであれば、追加的な対策が基本施策に反映されていると考えてよいのか。
5	議題2でも述べたことだが、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、食事の配達が増えているので、市内の企業に対して、配達時に電動自転車を活用しオートバイや車の利用を減らすことなどを、具体例をもって働きかけると良いと思う。また、家庭部門だけでなく、業務、運輸、廃棄物の部門も二酸化炭素排出量が減っていないので、該当する部門への排出量削減の呼びかけをしていただきたい。

その他（議題1から3以外での意見等）

	意見
1	<p>環境省は「2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロにすることを目指す旨を首長自らが又は地方自治体として公表された地方自治体」をゼロカーボンシティとしている。戸田市もゼロカーボンシティを表明することが望ましい。電気・ガス供給に関してはそれぞれの供給会社の努力を待つこと、水素エネルギーの普及に関して技術的な革新が今後も必要であるが、ゼロカーボンに向けて市でできることとして、次のようなことを計画に謳うことを提案する。</p> <p>①エネルギーの地産地消化をさらに促進。 太陽光発電・燃料電池・蓄電池の普及。また、水素エネルギー普及を目指す。</p> <p>②交通手段のゼロカーボン化を促進。 電気自動車と燃料電池車の普及促進。水素ステーションの設置。自転車活用の普及。</p> <p>③企業・一般市民の建物のローカーボン化を促進。</p> <p>④廃棄物リサイクル促進 堆肥化等で、焼却分を減少。</p> <p>⑤市域内でも、外部でも緑化促進、森づくり。</p>
2	環境基本計画の改定の方向は、環境問題の動向を踏まえ、社会情勢等を十分考慮し、基本目標＞基本方針＞基本施策からなる計画の体系もよく出来ていると思う。施策とプロジェクトが実効性のある取り組みであることを期待する。
3	市民が参加できる環境問題として、ごみ出しのルールを守ることや、エネルギーの使用量を減らす工夫をすることも大事だと思う。
4	新型コロナウイルス感染症の流行により、地球上の感染症の恐怖は地球環境を考えるうえでも重要なこととなった。人類はこれ乗り越えたうえで、地球に起こる人知を超える自然や生態系

	の崩壊を防ぐ行動を取らねばならない。計画が計画で終わらぬよう努力したい。
5	コロナ禍で、残念ながら環境審議会が2回とも書面会議となってしまった。次回は万全に対策をし、是非とも対面での会議を開きたい。
6	議題が少々難しいと感じる。530運動について啓発をしていくと書かれているが、新しい人をどう組み入れていくか、閉鎖的な部分をどのようにオープンにしていくかが課題であると思う。
7	駅前のスモークルームの設置は戸田公園だけなのか。戸田駅、北戸田駅はどんな状況なのかを教えていただきたい。